

第34回与謝野町地域公共交通会議 会議報告書

■日時 令和4年3月3日（木）午後3時から4時20分まで

■場所 知遊館2階 研修室1・2・3

■出席者

山添 藤真	曾川 高円	笹岡 洋一	長島 誠	中上 敏朗
小塚 敏郎	小西 正芳	河邊 時寛	渋谷 卓司	林 忠広
井崎 智満	川本 康博	春名 靖弘	柴山 進	片岡 伸夫
古田 良明	中川 世士	小池 大介	田辺 茂雄	

■欠席者

石倉 秀紀

■事務局

小谷 企財主幹 河野 企財補佐 本田 企財主事

会議の要点

- 京都府北部連携都市圏地域公共交通計画の最終案について事務局から説明。委員からの意見を発言いただき、最終案のとおり承認。
- 丹海バスのバス停名称の変更について、令和4年4月から「加悦谷高校」から「宮津天橋高校加悦谷学舎」へ変更する内容で資料のとおり承認。
- 与謝野町地域公共交通計画の策定について、令和4年度の策定スケジュールを報告。委員についても法定協議会の設置にあたり追加があることを周知。
- 丹海バス路線福知山線について、前回第33回会議からの進捗を事務局から説明。福知山市内の高校と福知山市、丹海バスへのヒアリング結果を共有。
- 令和4年2月3日から3月4日まで実施中の乗合タクシー実証実験について2月25日までの実績を中間報告として共有。

■会議内容

1. 開会

配付資料の確認、出席状況の報告

2. 会長あいさつ（割愛）

3. 議題

（1）京都府北部連携都市圏地域公共交通計画の策定について

- 資料1について事務局から概要版を基に説明。最終案について、資料のとおり承認された。委員からの発言は以下のとおり。

委員：補足と感想を述べる。事務局から説明のあった概要について8頁、方策1にある交通結節点として運行ダイヤの調整とあるが、見ている方は交通結節点どこのことだと思われたかもしれない。3頁に地図があり、右側の一番下に星印があり、駅を中心とした交通体系として案が提出されていることを補足する。また、目標が6つある。目標3の方策は8から11まで4つある。方策8から11についてはとりわけ広域的な視点を持って設定されており、この計画の特徴を表していると思う。公共交通の移動環境を整えていこうとしているという意気込みに思われるので、大変期待をしている。

委員：原案通りで良いかと思うが、交通事業者として折角の機会なので発言をさせていただく。12ページ等に安全・安心な運行サービスの提供に努め、利用者満足度がさらに向上する取組を積極的に行う 公共交通 一方で、自家用車に敵うというサービスは限界がある。地域の方に使っていただく、正しくマインドセットにあると思うが、財源的なこともあり、たくさん走らせるには限界がある。自家用車との すみ分けが問われる。もちろん努力はするし、行政の力も借り、公共交通を使っていかなないとなくなるという危機感を住民にも知らせていく必要があると考えている。もう1点、公共交通人材不足の解消ということで、丹海でも人手不足となったこともあり、路線を再編最近では、一時期よりは落ち着きつつあり、圏域外の方が、免許を持たない方が免許をとれる丹海の制度を使い、落ち着きつつあったが介護離職など高齢の運転手が辞めていくことや、若い運転手が他の地域の運転手出て行ったり、全国的な整備工員の取り合い、状況がある 企業説明会 中高生の企業体験 若い方を本当に進めていきたいし、都会ではなく地域に残って仕事があるということをお伝えいただきながら、会社、地域の公共交通を守っていききたいのでご協力をお願いしたい。

委員：計画に対しての発言ではないが、提案をさせていただく。北部地域を支えていただいているバス関係の事業者、丹鉄などの鉄道事業者、様々な方がいる中で、簡単、便利であれば人は興味があり、使ってもらえる。例えばICOCA とかがそう。一枚のカードを使えば北部圏域にある公共交通を利用、そして複数の交通機関の決済が一枚のカードでできるような仕組みを、出来るかどうかは分からないが、やってみてはいかがか。地元民だけでなく観光客の利用が増えると思える。人の数を増やす、あるいは利用者を増やさなければ経営基盤を維持できない。

事務局：デジタルやキャッシュレス、事業者が違っても一気通貫できるような施策の提案ということだが、9頁にある方策5にMaaS という記述がある。委員が今発言された内容が、まさしくこの部分を指していて、日本全国でこういった取組が進められており、実際に実用化されているというところ。例えばデータフォーマットの話が挙げられているのですが、先進技術を取り入れるなど、方向性として北部地域でも進めていこうというところ。皆さんと協力しながら便利な交通の使い方を目指していくということをご理解いただけたらと思います。

委員：2、3日前にテレビで姫路から天橋立まで行く芸能人のバス旅が放送されていた。その時に問題だと思ったのが、但馬と京都府とのつながり。但東町から岩屋まで歩いて移動をされていた。歩いてバスに乗って与謝の海病院まで行って、与謝の海病院から天橋立まで向かっていた。目標2のところ、上手くつながるようにしたいという目標があるので、案に対しての意見ではないが、但馬と丹後をつなぐルートで鉄道以外のルートがおろそかになっている。買い物や通院など町内の移動についてはいろんなルートを考えていただいているが、少し遊びに行こうと思ったときは福知山や舞鶴、但馬といったところになる。バスを降りて乗り継ぐことが難しい。しっかりと調べていかないと乗り換えができない。何時に乗ったら何時につくというルートを設定頂ければもっと楽しくなるのと思っている。

会長：今回 議論の枠組み 北部5市2町の連携というところ。委員からいただいたご意見はあらゆる施策においていえる指摘であったと思う。加えて、但馬、丹後は人と人とのつながり、経済的な交流というものがあるが、行政間の連携は不足になりがちだということ。この観点について非常に重要な視点だと思うし、事務局または国の立場から発言をいただければと思う。

委員：私の方からお答えが出来ればと思う。与謝野町の岩屋から但東町の中野まで運行される全但バスがあり、過去乗り入れがあった。丹海バスと全但バスが上手に乗り継げられるような設定がされていたが、どういった経過があったかが存じてないが、恐らく、福知山線などと同様に利用者と収支との採算が合わないことが理由だったのではと思われる。観光客を考えると但馬、丹後間の移動はあったと思うが、少しでも多くの方に乗っていただかないと幹線として維持できない。どういうふうな形で施策としてやっていけるか 思いは分かるが、実行することは難しいと思っている。例えば、京丹後市と豊岡市の乗り入れもないと思っているが、鉄路での移動しかないのが現実だと思う。

委員：委員から大変貴重な話をいただいた。私もその番組を途中から拝見していた。ご指摘の点については先ほどMaaS についてもありましたが、まずは移動の選択肢としてまず利用者へお示しが出来ていないと、きっかけ作りができないのではと思う。今後計画を実施していくにあたり、ご相談をさせていただければと思う。この計画についても最終案の段階というところではあるが、実行した後も非常に重要。先ほど指摘のあったところについても、どのように、だれが、どこまでやっていくのかをつまびらかにしながら、時期時期で皆さんで進捗を掴むというか、マネジメントをしながら、新たな委員からの指摘に対して、一つ一つ丁寧に進めていくことが

大事だと思っている。

(2) 丹海バスのバス停名称の変更について

【概要】

- 資料2について事務局から説明。令和4年4月より「加悦谷高校」が「宮津天橋高校加悦谷学舎」に名称変更となることに伴い、丹海バス路線の与謝線「加悦谷高校前」バス停名称も変更したいことで丹海バスから提案があったもの。異議なしで資料のとおり承認された。

4. その他

- ・与謝野町地域公共交通計画の策定について

【概要】

- 資料3について事務局から説明。過去平成30年から地域公共交通会議で話をしてきた内容を踏まえ、国の法律改正がなされたことから策定するという背景、今後どういったスケジュールを考えているかの案を共有した。

- ・福知山線の今後について

【概要】

- 資料4について事務局から説明。前回12月に開催した第33回会議の内容から進んだ事柄について、福知山市内の私立高校、福知山市へのヒアリング結果、また別日に行った丹海バスへのヒアリング結果についてを説明し、委員へ共有した。

- ・乗合タクシーの実証実験について（経過報告）

【概要】

- 資料5について事務局から説明。WILLER社が作成した2月25日時点での中間報告を共有し、今後WILLER株式会社、日本交通株式会社、与謝野町で検証することを報告した。

【全体を通じて】

委員からの発言は以下のとおり。

委員：資料5について、事務局として利用状況は想定通りなのか。それとも少ない、多いがあるのか。

事務局：今回無料での実証実験をさせていただいているというところから通常のバス、タクシーとは違うというところが大前提。まずは乗合タクシーを知ってもらい、皆さんに乗っていただきたいというところから始めた。委員のご意見への回答としては、正直なところ具体的な数字を設定しての想定ができなかったところからスタートした。とはいうものの、予約方法について、アプリではなく電話での予約がほとんどだろうと考えていたが、蓋を開けるとアプリ、電話予約は半分ずつといった内訳となっており、ここは想定外だった。今まで何人かにお聞きしてみるとアプリを利用した予約はすごく便利だという話も複数の方からいただいております。乗合タクシーについて次回以降の恐らく主要なテーマとなると思う。最終の報告、評価検証を日本交通様、WILLER様、町との3者で行い、詳しい方針などを皆さまとご検討させていただければと思う。

委員：他の利用者からの意見を聞いている中では、エリアが絞られていて利用しにくいとの意見を聞いた。町全体、最低でも加悦エリアまで広げていただけるとさらに利用が増えるのではと思っている。

【運輸支局から】

本日、出席をいただいた交通事業者の皆様方におかれましては、新型コロナの長期化、また原油価格の高騰ということもあり、大変厳しい経営環境に置かれている中、感染防止対策も含め、季節柄より一層の安全対策をいただきながら、公共交通サービスを維持、継続いただけることに対しまして深くお礼を申し上げます。コロナの影響について、本省の取りまとめにはなりますが、1月の収入を2019年同月比で30%以上減という結果になっており、事業者全体でも約3割が該当するということが、非常に厳しい状況が続いています。こうしたコロナの影響を受け、公共交通サービスの回復に向けては、短期的には国の方でも、例えば運送費の関係についても支援し、また感染防止対策の支援とかで、一方では、町関係者の皆様方も含めて新型コロナ臨時交付金の活用を通じて地元の交通事業者さんの皆様方への支援を講じていただいているところ。誠にありがとうございます。他方、中長期的にはですね、本日事務局から話や説明があったが、町の方で公共交通計画を作って

いこうという中で、先ほど委員から意見もあった mobi の関係、こういったものをしっかり分析しながら、どういった交通サービスがよいかしっかり考えていく必要があると委員のお話も聞きながら印象を持ったところ。一方、本日、ご審議を賜った広域計画だが、これについても委員の皆様方から貴重な話をいただき、私も運輸支局として、調整会議のメンバーであるため、取りまとめに協力いただき本当にありがとうございました。心より感謝申し上げます。今後、手続きにつきましては一定、事務局と一緒に進めながら、計画は今後 3 月あたりに、公表が 4 月になるかもしれないが作成をされる。本日の資料だが、こういった実施については、それぞれの立場の中で積極的に介入をしていただくということが大変重要。この辺りも委員の皆さまのお力添えを賜りたいと思います。支局としましても最後の仕上げに向け、事務局と連携したいと思いますので引き続きお力添え、よろしくお願いします。

4. 閉会

令和 3 年度の会議開催は今回で最後となり、次回の開催は 4 月以降となることを周知して閉会。